

ニュースリリース

日興アセットマネジメント株式会社

日興アセットマネジメント 株主提案に対する賛成数が急増 ～ 2007年6月株主総会 株主議決権行使結果 ～

[東京 2007年12月27日] 日興アセットマネジメント株式会社(取締役会長兼 CEO:ティモシー・マッカーシー、以下「日興AM」)は、2006年7月から2007年6月までに開催された株主総会において、行使対象企業1,932社の9,283議案に係る議決権を行使した結果を発表しました。

日興AMでは、投資先企業の議決権行使を適切に行うことを通じて、確実に受託者責任を果たすことを目的に投資先企業の株主議決権の行使に関するガイドライン「議決権等行使指図ガイドライン」を2002年に制定しました。この運営にあたっては取締役社長兼 CIO のビル・ワイルダーを委員長とする10名の議決権行使委員会と専任担当者1名を含む事務局3名による計13名による体制で、意思決定プロセスおよび行使指図、ガイドラインの改定を行なっています。また、この全文は国内資産運用会社として他社に先駆けて自社ウェブサイト上に公開しています。

2006年7月から2007年6月までに開催された株主総会において、日興AMが行った結果は別表1および2のとおりです。前期の行使結果との比較における今期の特徴は、株主提案に対する行使の違いにあります。株主提案議案自体が50件から80件に増加したことに加え、当社の株主提案に対する賛成が急増しました。前期は株主提案議案への賛成が一切無かったことに比べ、今期は約14%に賛成しました。賛成件数の急増に関しては、資本政策に関する議案など、日興AMが目的とする長期的な企業価値の最大化に向かって積極的に評価すべき内容の株主提案が増加したことが大きな変化の主な要因であると考えております。

会社提案の議案内容に関しては目立った変化はなかったものの、定款変更議案や退職慰労金議案、会計監査法人に対する反対比率は前期より著しく下がりました。背景には、会社法改正に伴う定款変更議案が前期において落ち着いたこと、会社側と株主の活発な対話が行われるなど各議案において株主に対する会社側の配慮がありました。

この行使結果について取締役社長兼 CIO のビル・ワイルダーは次のように述べています。「長期的な企業価値の最大化という目標の達成のため、積極的に賛同すべき株主提案が多かったことは株主からのガバナンスという観点からも大変好ましいことであると考えています。日興AMが賛成票を投じた株主提案議案が結果的に否決されてしまったことは大変残念ですが、今後に向けた大きな変化が起こった年だったのではないかと思います。日興AMは、今後も引き続き投資先企業の経営陣との積極的な対話などを通じて、受託者としての責任を積極的に果たしていきます」。

以上

裏面に続く

別表 1: 議案別議決権行使状況(会社提案)

| 総会議案 | 賛成 | 反対 | 棄権 | 小計 | 反対 比率(%) | 反対・棄 権比率(%) |
|-----------|-------|-------|-----|-------|-------------|----------------|
| 剰余金処分 | 1,453 | 10 | 2 | 1,465 | 0.7 | 0.8 |
| 定款一部変更 | 783 | 213 | - | 996 | 21.4 | 21.4 |
| 取締役選任 | 1,683 | 83 | 6 | 1,772 | 4.7 | 5.0 |
| 監査役選任 | 1,309 | 378 | 104 | 1,791 | 21.1 | 26.9 |
| 退職慰労金支給 | 691 | 276 | 10 | 977 | 28.2 | 29.3 |
| 役員報酬額改定 | 466 | 13 | - | 479 | 2.7 | 2.7 |
| ストックオプション | 133 | 115 | - | 248 | 46.4 | 46.4 |
| 再構築関連 | 63 | 3 | - | 66 | 4.5 | 4.5 |
| その他会社提案 | 1,130 | 231 | 48 | 1,409 | 16.4 | 19.8 |
| 総計 | 7,711 | 1,322 | 170 | 9,203 | 14.4 | 16.2 |

別表 2: 議案別議決権行使状況(株主提案)

| 総会議案 | 賛成 | 反対 | 小計 | 賛成比率(%) |
|-------|----|----|----|---------|
| 剰余金処分 | 8 | 13 | 21 | 38.1 |
| 役員選任 | 1 | 10 | 11 | 9.1 |
| 定款変更 | 2 | 46 | 48 | 4.2 |
| 総計 | 11 | 69 | 80 | 13.8 |

■留意事項

○当資料は、日興アセットマネジメントが「2007年6月株主総会 株主議決権行使結果」についてお伝えすることなどを目的として作成した資料です。○当資料は、信頼できると判断した情報に基づき作成されていますが、情報の正確性・完全性について弊社が保証するものではありません。

日興アセットマネジメントについて

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第368号
加入協会:(社)投資信託協会、(社)日本証券投資顧問業協会

日興アセットマネジメント株式会社(以下、日興AM)は、設立以来45年以上にわたり、わが国をリードする資産運用会社として、投資家の皆様に多様な投資商品と投資アドバイスを提供しています。日興AMの投資信託商品は約200社に及ぶ提携証券会社や銀行のネットワークを通じて販売されています。日興AMは、自社運用する主に日本株式や債券、不動産投資信託(REIT)に投資するファンドに加え、世界の優れた運用会社の多様な運用力を日本の投資家に即した形で商品化する「ワールドシリーズ」プラットフォームを通じて提供しています。

日興AMは、国内初の社会的責任投資(SRI)ファンド『日興エコファンド』を1999年に設定したほか、国内の資産運用会社として他に先駆けてISO14001(環境マネジメントに関する国際標準規格)の認証を2001年に取得するなど、社会的責任活動に積極的に取り組んでいます。

日興AMの運用力は高く評価されており、2005年2月にはリッパージャパンが選ぶ「最優秀運用会社」を受賞しました。これは、株式ファンド、債券ファンド、バランス型ファンドという3種類の資産区分における優れた運用成績にもとづくものです。また2006年4月にはアジアインベスター誌により過去5年間におけるリスク調整後の日本株の運用成績でトップであると評価され、「アジアインベスター アチーブメント アワード(日本株部門)」を受賞、さらに2007年にも過去10年間のリスク調整後の部門で同賞に選ばれました。

日興AMグループ*の運用資産残高は約12.9兆円に上ります(2007年9月末現在)**。基本的なものから革新的なものまで約230種類の公募投資信託を取り揃え、個人投資家、機関投資家の皆様の幅広いニーズに応えています。東京、ニューヨーク、ロンドン、シンガポールに拠点を構え、600名を超える従業員を擁します。

*「日興AMグループ」とは日興アセットマネジメント株式会社とそのグループ会社の総称です。

**日興アセットマネジメント株式会社および海外子会社の連結運用資産残高(投資助言を含みます)。